

2024 年度

事業計画書

2024 年 4 月 1 日から

2025 年 3 月 31 日まで

学校法人千代田学園

目 次

1. 千代田学園の基本方針等	2
2. 大阪千代田短期大学の事業計画	3
3. 大阪暁光高等学校の事業計画	5
4. 認定こども園 大阪千代田短期大学附属幼稚園の事業計画	7
5. 千代田学園法人本部の事業計画	8

1. 千代田学園の基本方針等

1. 学園の創設

○学校法人千代田学園の始まりは、真言宗盛松寺住職の故高橋道雄師が、第二次世界大戦後の荒んだ世相を憂いて、庶民のために学問所を開いた弘法大師空海（774 - 835 年）の偉業に倣い、1950 年に千代田高等学校、附属幼稚園を開設したところに遡ります。本学園は、その後、1965 年に大阪千代田短期大学も開学しました。

2. 学園の建学の精神

○空海は、身分や貧富にかかわらず門戸を広く庶民に開放し、あらゆる思想・学芸を総合的に学ぶことができる私立学校「綜芸種智院（しゅげいしゅちいん）」を創設（829 年）し、そこで多くの前途有為な青年を育てようとした。

○本学園は、この空海を受け継ぎ、建学の精神を「人間教育」としています。本学園の「人間教育」は、若い世代に豊かな人間性を培うとともに、平和で民主的な社会の形成者として必要な知識、教養と、それに基づいた技術を教授することにより、社会や地域を支え、また支えられる人間を育成することを基本的な考え方としています。

3. 学園の使命

○「人間教育」の具現化として、本学園は、社会的共通基盤を担う教育、福祉、医療など対人援助職の分野を指向する若人が輩出する学園づくりをミッションとしています。

○本学園がこれまで積み上げてきた、一人一人が自らの人生の主人公として生きる力（主権者教育）の成果を土台としつつ、志や目標を持って本学園に入学してきた学生・生徒・園児たちとその保護者の期待に応えていくための教育の創造に全力で取り組みます。

4. 学園の中期計画と 2024 年度の事業計画

○本学園では、2021 年度から 2025 年度までの 5 ヶ年を計画期間とする「第三期学園振興中期計画」（以下、「中期計画」という。）を、2021 年 11 月に策定しました。

○2024 年度事業計画書は、中期計画で示した財政上および教学上の課題・目標を解決し実現するための 2024 年度の年次計画として、各校種及び法人本部において取り組む主な事業計画の具体的な内容を示したものです。

2. 大阪千代田短期大学の事業計画

1. 定員確保

◎2025 年度入試において入学定員 100 名を確保します。

◎2025 年度から幼児教育科に、高校生が短大の学びについてイメージすることのできる「音楽保育コース」「アート保育コース」「遊び自然保育コース」「キャリア探求コース」(仮称) の4コースを設置し、入学生が自らの個性を伸長させ、夢が実現できる短大であることを広報します。

○大阪千代田短期大学のよさや特徴(下記)を教職員・学生が積極的に広報します。

- ・ 野外活動(BBQ 等)・大学祭・劇発表・ゼミ活動などの学びの場に、すべての学生の「出番」があり、楽しく成長できる
- ・ キャンパスに「冒険遊び場」(ちよたんパーク)をつくり、附属幼稚園をはじめ、河内長野24園の子どもたちが広大な自然の中で活動しており、その活動に学生が参加できる
- ・ 新たに「3年コース」が開設し、学生自身の実情や希望に応じた学生生活を選択することができる
- ・ 韓国研修旅行により、韓国語学習やKポップダンスなどと併せて、多文化共生について学ぶことができる
- ・ 「4つの無料」(ランチ週2回・千代田駅短大バス等)をはじめ、学生生活の応援が大切にされている
- ・ 「こども音楽療育士」の育成をはじめ学生に希望に沿った学びができる
- ・ 進学、就職が 100%できる

○公立・私立高等学校(大阪、和歌山、奈良)との連携を強化し、入学生の確保を図ります。

○これまで本学に進学実績がない公立学校への広報を強化するために、一般入試における成績優秀者優待制度を創設します。

○年々入学者が増加している通信制高等学校への広報を強化します。

○オープンキャンパスの内容を改善するとともに、日曜日開催を原則として参加者の増加を図ります。

○学生が、本学の魅力をInstagramで発信する、後輩の高校生をオープンキャンパスに誘導するなど、学生による広報活動を強化します。

○法人推薦特別入試、協力事業所推薦など、幼児保育教育施設と連携した取組を強化します。

○田辺市でオープンキャンパスを実施するなど、和歌山県南部での取組を強化し、入学者支援策等(下宿補助を含む)の取組を広報します。

○大阪暁光高等学校幼児教育コースとの連携を深めるとともに、進学総合コースの生徒への広報を強化します。

2. 総合学園としての魅力・教育力の創造と向上

- 附属幼稚園との「夏祭り」「短大でのお泊り保育」「劇鑑賞」等、行事におけるこれまでの交流活動を発展させ、より質の高い活動をめざします。
- 附属幼稚園が行う「冒険遊び場」（ちよたんパーク）を活用した保育の場に学生が参加し、園児学生双方にとって学びが深まる取組を創出します。
- 附属幼稚園が行事として行う在校生・卒業生の家族に対する「冒険遊び場」（ちよたんパーク）開放に学生・教職員がボランティアとして参加します。附属幼稚園家族へのデイキャンプ場として日曜日の施設開放などとあわせて、附属幼稚園の広報活動に協力します。
- 日常の教育活動を実施するうえでの効果的な附属幼稚園との連携の在り方を研究します。
- 大阪暁光高等学校幼児教育コースの生徒が、短大の授業を体験するなど、その魅力を体感することのできる実践的な取組を創出します。
- 大阪暁光高等学校進学総合コースの生徒に対する進路説明会を開催するなど、短大が進学の選択肢の一つとなるような取組を行います。

3. 瞳かがやき、生きる希望を育む教育の推進

- ◎OECD が提唱するエージェンシーの考え方「自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく力」の育成をめざして、「教師が教える授業から、学生が主体的に学ぶ授業」へ座学改革を行います。
- 生涯を通して学び続ける保育者に必要な「事象に疑問を持ち批判的に考える力」「テキストを正確に読解する力」「自らの考えを表現する力」を育成します。
- あらゆる学びや活動のなかに学生の「出番」があり、学生自身が「成長」や「楽しさ」を実感できる教育活動を創出します。

4. 学園改革と高野山大学との連携教育活動の推進

- 高野山大学と FD 活動、SD 活動、大学祭、クラブ・サークル活動等で協働を進めるとともに、3 回生への編入を拡大します。

5. 地域との連携・社会貢献活動の推進

- NPO 法人「子ども・若もの支援ネットワークおおさか」と連携協定を締結し、地域が抱える課題に取り組み、学生の資質向上に努めます。

6. 学園関係者のネットワーク

- 同窓会や後援会からの支援を受けて大学祭や韓国研修旅行の充実に努めるとともに、学生確保のための新たな連携について検討します。

3. 大阪暁光高等学校の事業計画

生徒の瞳かがやき 社会から信頼される学校へ

1. 生徒募集について

- (1) 2025 年度入試において、全ての科・コースで定員を確保します。
- ① 科・コースの魅力を分かりやすくします。とりわけ、教育探究コースのあり方を検討し、進学総合コースの特色を明確にします。
 - ② 受験生が“暁光の学校生活”を実感できるオープンスクールを実施できるよう、教職員をあげて取り組みます。
 - ③ ホームページの毎日更新を行ない、インスタグラムを充実させて情報発信します。
 - ④ 広域を対象とした募集活動を行い、受験中学校数を 150 校以上確保します。

2. 総合学園としての魅力・教育力の創造と向上

- (1) 「ちよたんマインド」(注) を備えた保育者を 5 年後に育成できるよう、カリキュラムの展開を行います。
- ① 学年ごとの目標を明確にして、教科活動、並びに生徒会・HR 活動・学校行事を展開します。
 - ② 高短 5 年一貫教育あり方会議、幼児教育コース会議を充実させ、高短のカリキュラムの連携と検証を行います。
 - ③ 生徒・学生・教職員の人的交流、並びに、教育実践の交流を図ります。
- (2) 短大附属幼稚園(こども園)での実習や交流を促進します。

.....

(注) 「ちよたんマインド」(大阪千代田短期大学ホームページ)

“ちよたんマインド” が育む専門知識と実践力を兼ね備えた「せんせい」

① 協調性

子どもの人格を尊重する姿勢と感性を持ち、子どもとその家族に寄り添い、地域・家族を支援する力、協調性を備えた保育者の養成。

② 科学的認識

子どもに関わる専門知識に基づいた保育内容や援助方法についてよく理解し、現代社会と人間についての科学的認識に裏付けられた保育者の養成。

③ 豊かな表現力

変化する時代に対応し、現代社会の要請に応えられる力、子どもの能力を多面的に育む豊かな表現力を備えた保育者の養成。

3. 瞳かがやき、生きる希望を育む教育の推進

- (1) 生徒の学校生活の中心をなす授業の充実を目標に、「授業改善計画」を実施します。
 - ① 「魅力ある授業づくり」を5つの観点から進めます。
 - ❖ 教科目標・科目目標を明確にすると共に、基礎的・基本的能力を共有し、習得する手立てを構築する
 - ❖ 「問い」と「対話」を重視し、生徒同士が学び合う魅力ある授業をめざす
 - ❖ 学びに向かう姿勢を育むクラス活動を積極的に推進する
 - ❖ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを進める
 - ❖ 時代の要請に対応し、ICTを取り入れた授業を推進する
 - ② 「学習規律のある教室空間づくり」を進めます。
 - ③ 「教員の授業力アップ」を図ります。
- (2) 科・コースの理念・コンセプトを踏まえ、特色ある教育活動を追求します。
- (3) 生徒一人ひとりへの適切な進路指導を行います。
- (4) 自律的に行動する力を養成する生活指導を進めます。
- (5) 人権教育をさらにすすめ、生徒全員が安心して学校生活を送ることができるよう丁寧な個別対応を行います。
- (6) 「クラブ活動のあり方に関する方針」に則って部活動指導を行なうと共に、スタディーツアーなどの課外活動に積極的に取り組みます。
- (7) 教職員が社会や時代の変化を受け止め、対応できるよう研修を実施します。

4. 高野山大学との連携教育活動の推進

- (1) 特別授業の企画や学生・生徒・教職員間の交流を行い、高野山大学との連携を進めます。

5. 社会に開かれた教育、地域との連携

- (1) 防災訓練や中学校のクラブ大会の開催などを推進し、地域の中での役割を果たします。
- (2) 生徒たちの市民的な力を向上させるために、積極的に社会参加をサポートします。

6. 学校運営

- (1) スクールコンプライアンスを遵守し、生徒が安全で安心できる学校づくりを推進します。
- (2) 課題を明確にし、年度目標と方針をしっかりと設定して取り組みます。
- (3) 学校週5日制を有意義に運営し、教員の働き方を改善していきます。
- (4) 中期的視点を持った指導体制を確立します。
- (5) 保護者と共同して学校づくりを進めます。

4. 認定こども園 大阪千代田短期大学附属幼稚園の事業計画

1. 定員確保

- 2024 年度園児数として、120 名を確保します。
- 2022 年度から募集開始した 3 号認定の 1 歳児について、受入人数を増加します。
- 「ちびっこ広場」や「ぼっぼくらぶ」などの未就園児活動や積極的な情報発信を継続します。

2. 総合学園としての魅力・教育力の向上

- 短期大学のキャンパスでの活動機会を増加させるとともに、短期大学及び高野山大学と連携した教育活動を実践します。「ちよたんの森」や短大グラウンドでの活動、畑づくり・収穫などの取り組みを活発にします。卒園児や未就園児の取り組みの中に「ちよたんの森」での活動も取り入れていきます。
- 高等学校と行事やクラブ活動等との連携活動を実施する。幼稚園の預かり保育に参加するなど、園児との関わり方など学ぶ機会を作っていきます。
- 高等学校及び短期大学の学生生徒が園で実習するにあたり、情報の共有や課題の調整を十分に実施するとともに、受け入れ態勢を強化します。
- 短期大学との共同研究について、より協力し、進めていきます。短期大学の教員による保護者に向けての講演会など検討していきます。

3. 幼稚園における教育・保育改革の推進

- 非認知能力を醸成する取り組みを発展させます。
- 高等学校の幼児教育コース教員と連携し、1 歳児の保育活動を確立します。
- 保護者からの意見をアンケートなどで聞き取り、保護者ニーズを踏まえた園づくりを検討します。
- 発達に課題のある園児について、「さんさんクラブ」及び短期大学との連携体制を強化します。保護者からの相談にも対応し、支援できる体制を整えていきます。
- 2023 年度実施の学校関係者評価及び自己評価について適切に公表します。

4. 地域との連携、社会貢献活動の推進

- 校区の「あいさつ運動」や「バラエティフェスタ」などの地域の諸行事に参加します。
- 高等学校や短期大学と連携した独自の地域貢献活動を検討します。

5. 学園関係者とのネットワーク

○卒園児や保護者の会等とのネットワークを強化するため、積極的な情報発信を実施します。

5. 千代田学園法人本部の事業計画

1. 財政改革

- 「第三期学園振興中期計画」(2021～2025 年度の 5 年間)では、計画期間内での赤字解消、収支均衡を実現し、安定的な財政基盤を確立することを目標としていますが、現時点においても、大きな赤字を出す財政構造を抜本的に改善する具体策を実行できず、毎年度、資金の流出が止まらない、極めて深刻な事態になっています。
- 2024 年度の収支状況は、収入面では、短期大学が入学生の増加(2023 年度 73 名、2024 年度 86 名)により前年度に比べて収入増となるものの、幼稚園は現状維持、高等学校は 2023 年度入学者数(274 名)から 10 名程度減少による収入減の見込み、また短期大学・高校の転退学者による在籍数の減員も想定されるため、学園全体では、前年度より収入減になる予想です。
- 支出面では、2024 年度予算は、2023 年度当初予算の 10%以上の削減で予算編成を行い、また、実際の予算執行に当たっても、一層の節減に努めるよう求めています。しかし、こうした地道な努力を重ねても、抜本的な赤字解消策には程遠く、支出の中で最も大きな割合を占める人件費比率の見直しが喫緊、不可欠の課題となっています。
- こうした事態の中で、学園存続のためにいま何が必要か、自力回復の道か、その他の方法によるのか、複数の選択肢の中からどの道を選択するのか、理事長と教職員との個別面談(意見交換)の場も設定し、一人一人の教職員の意見を聞き、現在の経営状態や財政改革について丁寧な情報開示と説明を行い、教職員との相互理解に努め、協働で取り組みがすすめられるよう努めます。

2. 人事施策

- 教職員の適正な人数と適正な配置について、法制度の基準を踏まえ、具体案を継続して検討、作成します。
- 教職員の働き方改革について、引き続き各校種と連携して検討をすすめます。
- 人事考課制度の導入に関する調査・検討を実施します。

3. 学校法人としてのガバナンス

- 私立学校法改正(2025 年 4 月 1 日施行)に対応する寄附行為変更の認可申請に向けて、理事会や評議員会などの体制等の変更に向けた具体案を立案し、2024 年 5 月開催の全体理事会・評議員会で提案、2024 年秋のその会議での決議を経たうえで、事務手続きに取り組んでいきます。

○各種法令や寄附行為を遵守し、学園全体として適正かつ機動的な運営を持続します。

4. 各校種の連携強化

○法人本部が中心となり、各校種の広報活動の一層の連携強化をすすめます。

○各校種間の円滑な連携が可能となるよう協力・支援します。

5. 業務執行の効率化

○経費精算システムについては、まだ完全運用には至っておらず、迅速かつ効率的に決裁や予算の執行管理が可能となるよう、担当部所に人的措置を講じ、2024 年度中の本格的運用開始に向け、取り組みをすすめます。

○勤怠管理システムについては、さらに運用の効率性を向上させます。

6. 施設設備の整備

○財政状況が厳しい中ですが、高等学校電気室内電気設備の老朽化による取り替え工事を今夏実施します。また、今後必要な施設設備については、優先順位をつけて、各校種と調整の上、計画的に実施可能となるよう協力・支援していきます。

7. ICT 推進に向けて

○あらゆる実務の過程をデジタルデータを中心に据えたものに変革していきます。その端緒とし

(1) 学内の事務手続きにおいては、目標として数年以内に紙媒体を廃止しペーパーレス化を進めていきます。

(2) 月2回開催している本部会議・常任理事会について、将来的に1回をオンラインで開催するなど、事務の自動化・情報化を通じたコミュニケーションの効率化を図ります。

○以上を達成するために、専任職員を含む複数の人員から成る情報部門の確立を計画していきます。